

2014 年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名： 甲陵高等学校

担 当： 英語

氏 名： 木内美恵

1. 今回の研修における目的やねらい

〈教育活動に還元することを目標として〉

1. 開発途上国（タンザニア）における国際協力の現場を実際に視察して、その現状を知る。
2. ライフライン（水と電力）を中心に途上国の人々の生活を自ら体験することで、その現状と課題についての理解を深める。
3. 国際協力の現場とその現場で活躍されている職員や、青年海外協力隊の活動を視察したり、直接話を伺ったりすることで、国際協力活動についての理解を深め、またその課題について考える。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

1. 開発途上国（タンザニア）における国際協力の現場を実際に視察して、その現状を知る。
ZAWA、TANESCO を訪問し、見ることのできない現場を視察させていただき、現地のライフライン（水、電力）の実態を知ることができた。
2. ライフライン（水と電力）を中心に途上国の人々の生活を自ら体験することで、その現状と課題についての理解を深める。
ZAWA、TANESCO の訪問、市内（市場、街の視察）、ホームステイの経験を通して知識としてのみではなく、身を持って体験することができた。
3. 国際協力の現場とその現場で活躍されている職員や、青年海外協力隊の活動を視察したり、直接話を伺ったりすることで、国際協力活動についての理解を深め、またその課題について考える。
JICA、ZAWA、ムナジモジャ病院、キラカラ中等学校、TANESCO の各専門家の活動する様子を視察させていただくことができ、また直接お話を伺うこともできた。

3. タンザニアから学んだこと

- ・タンザニア（途上国）のライフライン（水、電力）についての現状。
- ・タンザニアで仕事、国際協力に取り組む方々から仕事・活動に対する熱い思いと姿勢。
- ・在タンザニア日本大使館表敬訪問という大変貴重な機会をいただき、大使を目の前にしお話を交わすことができ、日本人としての仕事に対する情熱と敬意を改めて感じる事ができたこと。
- ・JICA、ZAWA、ムナジモジャ病院、キラカラ中等学校、TANESCO の活動について。
- ・ザンジバル（99%がイスラム教徒の人々とその生活）の人々の生活（衣、食、住）、家庭の様子、子供の様子、イスラムに基づく生活の様子。
- ・市内視察の際に体感できた人々の生活の様子と歴史。
感動はことばで言い尽くせないものであった。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

次の時間で活かしていきたいと考えている。

1. 教科指導、「英語」の授業で活かしていきたい。

「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」の題材内容に関連させ、発展内容としてタンザニア（発展途上国）と現地で活躍する日本人や日本企業等の活動について知り、理解を深める。また、JICA の職員や隊員の方々との繋がりや、キラカラ中等学校との交流を継続しながら、タンザニア（途上国）と日本の互いの興味や関心を高め、相互理解を促すことができるような時間を作っていきたいと考えている。そして、自身がホームステイや研修訪問先で経験し学んだことを、教材化して可能な限り取り入れていきたい。

以下は今後実践できたらと考えている。

2. 総合的な学習の時間【国際理解教育】の授業で活かしていきたい。

タンザニアについて知り、理解を深め、タンザニア（発展途上国）と現地で活躍する日本人や日本企業等の活動について深く知り、さらに生徒自身で自発的な活動ができるよう促したい。・タンザニア（発展途上国）での問題とそのための解決策について考える。そのために、タンザニアの子どもたちや JICA の方々など、研修を通して出会った人々と連絡を取りながら、問題解決に取り組む。内容によって他教科と連携しながら進めていくことも必要だと考えている。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

一言で、全てというのが本音です。学びの多く感動の連続の日々であり、学んだと同時に無知であることを痛感し、もっと知りたいと思った。事前研修や現地の方との打ち合わせを含め、全てが学びだと感じ、全体的に大変充実していた。知識だけではなく、物事を多角的に見る力も養うことができたように思う。また、「伝える」、「共に課題を考える」ためには、実際に目で見て、話を伺うことが極めて重要なことだと改めて確信した。ひとりの日本人、地球人として、人のために何ができるかを考えさせられ、実際に現場で情熱を持って活動されている方々との出会い、現地の方との出会いが大変貴重であったと思います。今回の研修に携わる全ての方々との出会いに感謝し、この出会いを大切にしたいと思っている。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

各担当者が責任を持って仕事をしていたと思います。私の担当した学校交流に関しては、その中の各分担の担当になったメンバーが協力してくれました。私自身の担当は、しっかりと計画を立て実行できるように、稲村隊員や足立さんとできる限り密に連絡を取ることを心がけました。ここは大切だと思います。前日や当日の打ち合わせを含め、先方のご協力、ご理解のおかげで前日の打ち合わせも共通理解ができていたと思います。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

毎日が感動。吸収することがたくさんあり大変充実していた。同行していただいた田中さん、阿部さん、足立さん、JICA タンザニアと JICA 横浜の職員の方々、一緒に参加した先生方、この研修の全てに携わる方々に感謝しています。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

学びが多い充実した研修を充実したものにするために安全、健康に留意することが第一に重要です。慌ただしい中出発日を迎えないように、万全な状態で臨めるようにしていくのが良いと思います。

す。これを意識して過ごせたので、良かったと思います。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8 月 11 日 (月) -12 日 (火)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	出発前に羽田で皆と少し落ち着いて研修への心構えを確認し合うことができ、「これからいよいよ出発だ」という実感が湧いてきた。到着した時の温かい空気、文字、停車中に見る物売りで着いたなあと感じた。
8 月 12 日 (火)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	安全対策、健康管理は研修にあたり最も重要なこと。少し萎縮しそうになったが、気を引き締めていきたいと思った。
8 月 12 日 (火)	本日の振り返り	長い時間の移動から、JICA の方々との懇談会まで、長い 1 日であったが充実していた。疲れているはずなのに、外での懇談会は気持ち良かった。
8 月 13 日 (水)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	いよいよ研修が始まる。JICA 事務所の訪問。感激した。吸収することが多く、大変興味深い内容であった。
8 月 13 日 (水)	ザンジバルへ移動	港（フェリー乗り場）は独特の活気で溢れ、アフリカに来たなあと改めて感じた。時差ぼけもあり、船内では研修仲間と少し話をして睡眠をとった。
8 月 13 日 (木)	隊員との懇談会	素敵なレストランで、一瞬アフリカにいることを忘れるくらいだった。様々な隊員の方々との話は興味深いものであった。
8 月 13 日 (水)	本日の振り返り	この日は JICA でのブリーフィングを始め、市内視察、初のローカルフード、郵便局訪問など、地元的生活や歴史に触れることができ、全てが印象に残る密な 1 日だった。
8 月 14 日 (木)	ムナジモジャ病院 沢谷隊員 活動視察	実際に、現地の病院、実態（まだまだ課題があることや海外からの援助が支えになっていることなど）、隊員の活動の様子を知ることができ、大変貴重な 1 日となった。
8 月 14 日 (木)	専門家との懇談会	ZAWA の皆さん、大林さん、専門家との懇談会はこの日も自分の視野を広める有意義な会であった。
8 月 14 日 (木)	ザンジバル水公社（ZAWA） プロジェクトサイト視察	水源、配水地、見ることでできない場所で研修をさせていただき感動した。
8 月 14 日 (木)	本日の振り返り	大変充実した 1 日であった。大林さんに案内していただいた、ザンジバルの街、奴隷市場、地元のマーケットは刺激的であった。
8 月 15 日 (金)	ザンジバル水公社（ZAWA） プロジェクトサイト視察	職員の方々の熱い思い、現場視察、住人の人へのインタビューをすることができ、大変貴重な経験

提出期限：2014 年 9 月 3 日（水）

		ができた。
8 月 15 日（金）	ホームステイ先との交流	ZAWA の（ビッグ）Ali さん宅ということもあり、事前に挨拶をさせていただいたので、当日はどちらかといえバリラックスしてお家に伺うことができた。この Ali さん一家との出会いに感謝、大切にしていきたいと思った。
8 月 16 日（土）	ホームステイ先との交流	日常生活をこの目で見て、体験させていただいた。全てが学び。1 分 1 秒貴重な時間であった。
8 月 16 日（土）	教材購入	カンガについて（使い方、格言）の本、スワヒリ語で書かれた絵本を購入することができた。
8 月 16 日（土）	本日の振り返り	午前中のホームステイはまた有意義なものとなった。いつの間にかザンジバルの空気に慣れてきていた。
8 月 17 日（日）	ダルエスサラームへ移動	朝早出発。静かなダルエスサラーム。いよいよ私を含め、皆疲れが出てきた。デッキに出ると海もきれいで気持ち良かった。少しの間は良かったが、インド洋の荒波と風の強さを知らず、ちょっとぐったりした。
8 月 17 日（日）	モロゴロへ移動	景色も変わり、眠るのがもったいないと思いながら夜の懇談会と明日のために備えた。到着して少し休憩できたので、翌日の交流に向けて気持ちを入れ直すことができた。
8 月 17 日（日）	隊員との懇親会	稲村隊員との打ち合わせにほとんどの時間を使った。赤堀隊員ともお話できればよかった。足立さんとお話ができて有意義であった。
8 月 17 日（日）	本日の振り返り	新たな地、モロゴロの景色と市内視察で目にした全てのものがインパクトのあるものであった。
8 月 18 日（月）	キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察	担当であったこともあり、今日の交流が成功するよう、気合が入った。皆の協力でもとても良い 1 日になったと思う。キラカラ中等学校の皆さん、稲村隊員、足立さん全ての方々に感謝している。
8 月 18 日（月）	ダルエスサラームへ移動	帰りはほとんど寝ることもなく、あらゆる景色を目で見ておきたいと外をよく見ていた。道中のマーケットで足立さんが購入されたいいただいたバナナが美味しかった。サラさんや足立さんが道端のマーケットで買い物をする様子も印象的だ。
8 月 18 日（月）	本日の振り返り	交流が終わりホッと一息。懇談会ではまたいろんな話を伺うことができて、有意義な時間をすごすことができた。
8 月 19 日（火）	タンザニア電力供給公社 （TANESCO）プロジェクトサ	現場を見て、現地の職員の方々から直接お話をうかがうことができ感激した。ゼロからプロジェク

提出期限：2014 年 9 月 3 日（水）

	イト視察	トを動かしていく情熱には敬意を抱く。
8 月 19 日（火）	教材等購入	ティンガティンガアート、絵本、地図、楽器（マラカス）を購入することができた。
8 月 19 日（火）	本日の振り返り	TANESCO、ティンガティンガ村等、本日も学びと感動の 1 日であった。
8 月 20 日（水）	JICA タンザニア事務所 報告会	毎日が濃密でとにかく吸収し、整理するのにはまだ十分ではないくらいの経験をするすることができた。そのことを報告できたと思う。
8 月 20 日（水）	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	大変貴重な機会をいただき感謝している。大使にお会いでき、お話を交わすことができたことで、日本人としての仕事に対する情熱を感じることもできた。
8 月 20 日（水） -21 日（木）	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	翌日の勤務に備えて時差を考え寝るように心がけた。 無事に到着できて良かった。感謝の一言です。